

第2章 計画地及びその周辺地域の概況 並びに環境の特性

第2章 計画地及びその周辺地域の概況並びに環境の特性

1 計画地及びその周辺地域の概況

(1) 気象の状況

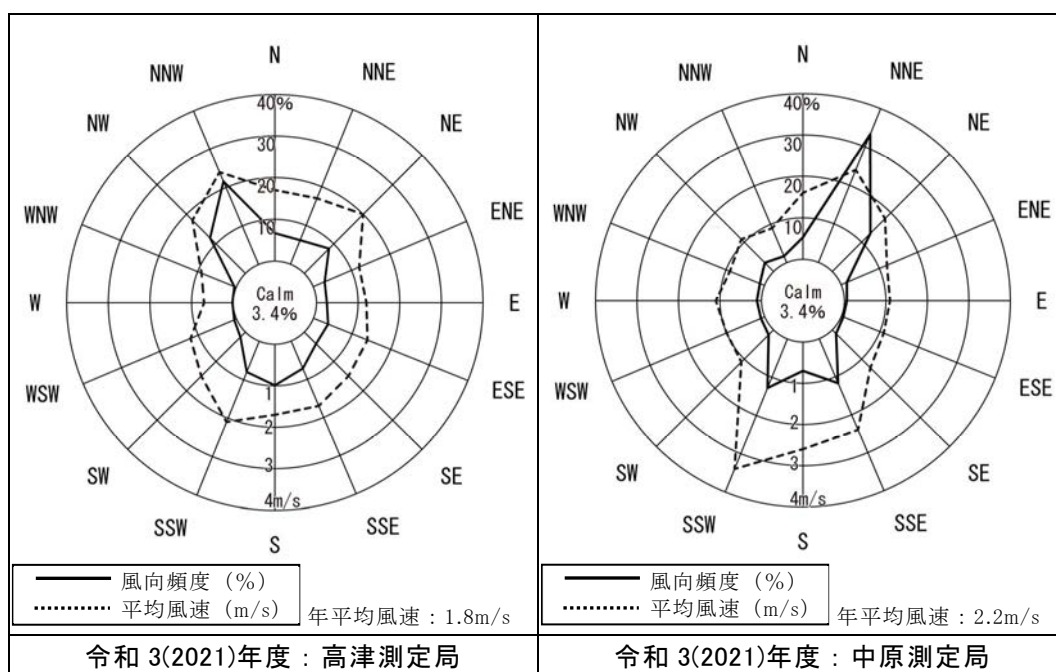
計画地周辺にある一般環境大気測定局（高津測定局及び中原測定局）における令和3(2021)年度の風配図は、図2.1-1に示すとおりである。

高津測定局では北北西（NNW：21.6%）、中原測定局では北北東（NNE：33.3%）の風が卓越しており、年平均風速はそれぞれ1.8m/s、2.2m/sである。

また、令和3(2021)年度の月別平均気温は、図2.1-2に示すとおりであり、年平均気温は高津測定局では16.7℃、中原測定局では16.9℃である。

降水量は、田島測定局（計画地南東側約11.3km）において測定されており、令和3(2021)年度の月別降水量は、図2.1-3に示すとおりであり、年間降水量は1,732.0mmである。

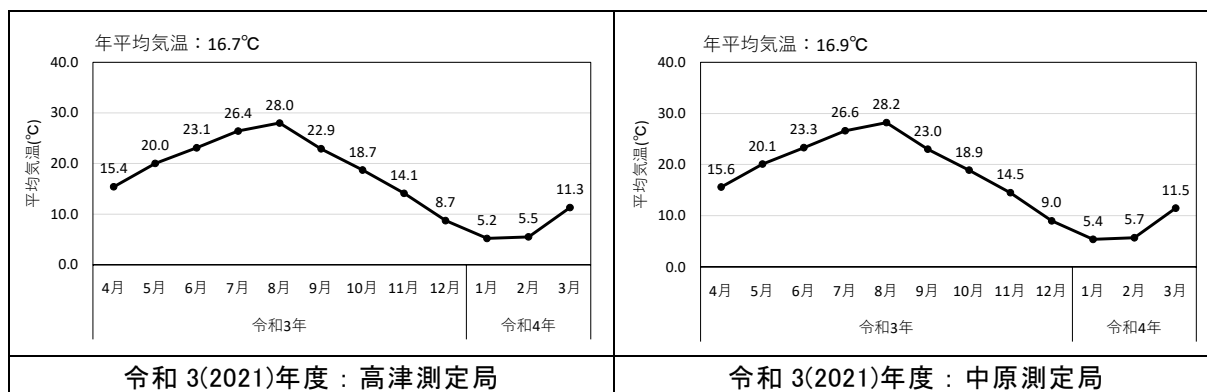
なお、測定局の位置は、図2.1-4に示すとおりである。



注) 「Calm (静穏)」は、風速0.4m/s以下のことを指す。

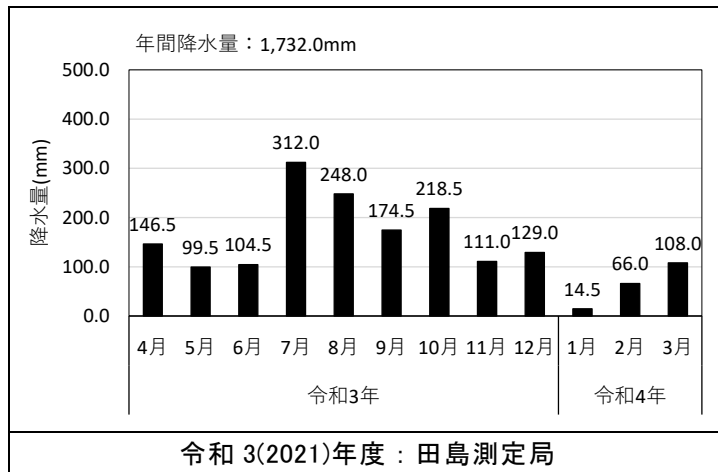
資料：「川崎市大気データ」（令和5年8月閲覧、川崎市ホームページ）

図 2.1-1 風配図



資料：「川崎市大気データ」（令和5年8月閲覧、川崎市ホームページ）

図 2.1-2 月別平均気温



資料：「川崎市大気データ」（令和 5 年 8 月閲覧、川崎市ホームページ）

図 2.1-3 月別降水量

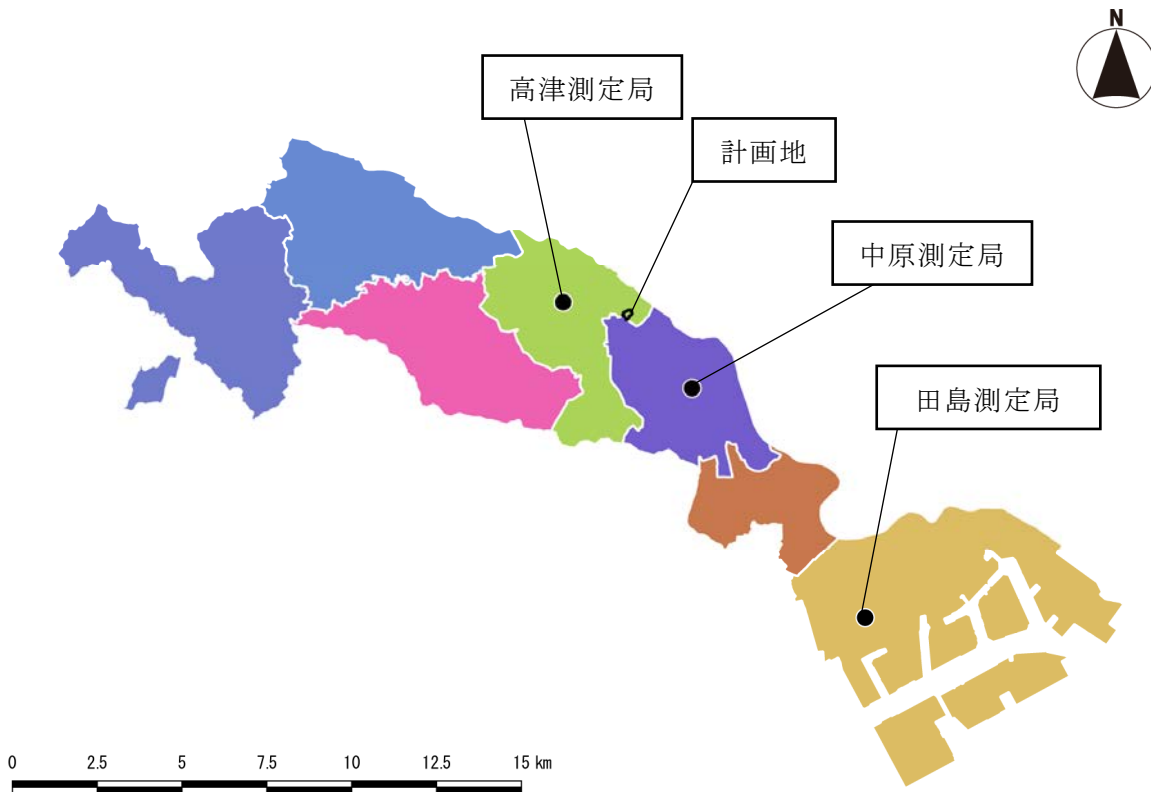


図 2.1-4 測定局位置

(2) 地象の状況

計画地及び周辺は全体的に平坦な地形となっており、計画地及び周辺の標高はT.P.*+12m程度となっている。

計画地及びその周辺の自然地形は、「旧河道」、「氾濫平野」及び「自然堤防」からなっている。自然地形の「旧河道」及び「氾濫平野」は、大半が「人工地形（盛土地・埋立地）」となっている。

※T.P.：Tokyo Peilの略。東京湾平均海面を示す。

(3) 水象の状況

計画地周辺では西側約70mに二ヶ領用水が、北東側約300mに一級河川多摩川が流れており計画地は多摩川流域に属している。

計画地周辺の地下水位は、「令和3年度 水質年報」（令和5年3月、川崎市）によると、計画地の西側約1.0kmにある坂戸小学校（高津区坂戸1-18-1）で測定されており、令和3(2021)年の年平均水位は、T.P.+5.02m（G.L.-7.50m）である。

「平成24年度 水質年報」（平成26年1月、川崎市）によると、計画地及びその周辺に湧水地は存在していない。

なお、「令和3年度 川崎市の災害概要」（令和4年8月、川崎市）によると、過去10年間（平成24年度～令和3年度）の住家浸水被害発生状況は、高津区では床上浸水が計969棟、床下浸水が計172棟、中原区では床上浸水が計965棟、床下浸水が計141棟である。令和3年度の浸水被害は高津区及び中原区では発生していない。

また、直近の風水害である令和元年東日本台風では、計画地周辺において浸水被害が発生している。

(4) 植物、動物の状況

① 植物

ア 植物相及び植生

川崎市において確認された植物種数（平成28年度～令和2年度）は表2.1-1に示すとおりであり、1,353種の植物種が確認されている。

計画地及び計画地周辺の植生図は、図2.1-5に示すとおりである。

計画地周辺は「市街地」や「工場地帯」の中に、「畑雑草群落」、「緑の多い住宅地」、「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」等が散在する。計画地内は「市街地」及び「工場地帯」となっている。

表 2.1-1 川崎市において確認された植物種数（平成28年度～令和2年度）

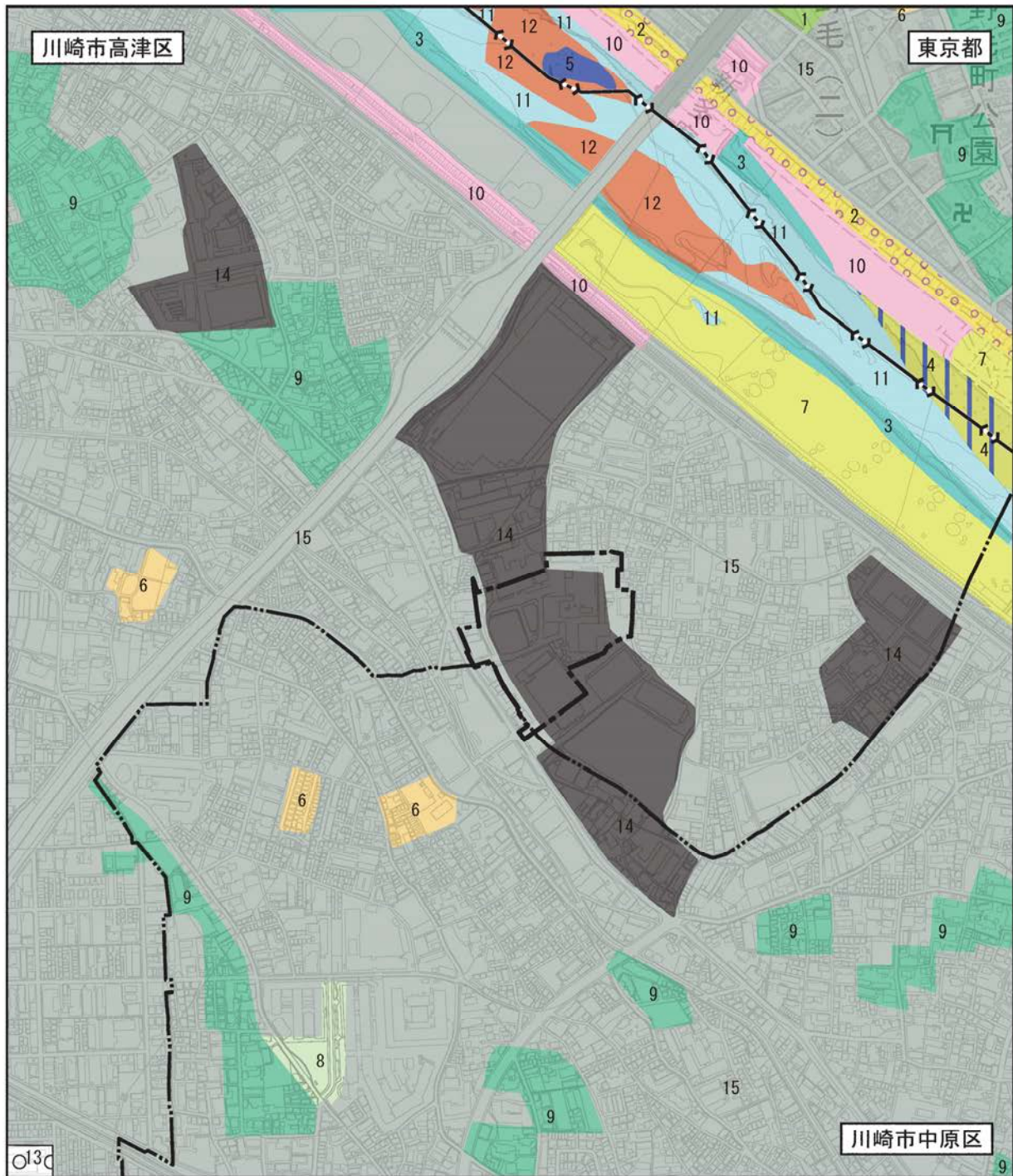
単位：種

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
植物種数	1,353	1,353	1,353	1,353	1,353

資料：「2021年度版 環境基本計画年次報告書」（令和4年1月、川崎市）

イ 天然記念物等の指定状況

計画地及びその周辺には、天然記念物、巨樹・巨木林及び、特定植物群落は存在しない。



凡例

- | | | | |
|--|--|---|--|
| <p>--- 計画地</p> <p>←→ 都県界</p> <p>--- 区界</p> | <p>1 クヌギーコナラ群集</p> <p>2 チガヤーススキ群落</p> <p>3 オギ群集</p> <p>4 河川砂礫地外来草本群落</p> <p>5 河辺一年生草本群落 (タウコギクラス等)</p> | <p>6 畑雑草群落</p> <p>7 ゴルフ場・芝地</p> <p>8 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等</p> <p>9 緑の多い住宅地</p> <p>10 路傍・空地雑草群落</p> | <p>11 開放水域</p> <p>12 自然裸地</p> <p>13 造成地</p> <p>14 工場地帯</p> <p>15 市街地</p> |
|--|--|---|--|

資料：「植生図 第6-7回調査」（令和5年8月閲覧、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ）

図 2.1-5 植生図



② 動物

ア 動物相

「神奈川の鳥と獣 神奈川県鳥獣生息分布調査報告書」（平成4年3月、神奈川県環境部）によると、全県を116の区画（メッシュ）に分け中型哺乳類18種類、代表的な鳥類150種類について調査を行い、生息分布図を作成している。

計画地及びその周辺が該当するメッシュは2メッシュであり、該当するメッシュで生息確認されている種は、ほ乳類では、「タヌキ（イヌ科）」の1種であった。鳥類は、表2.1-2に示すとおり、29種の生息が確認された。確認種をみると、ヒヨドリ、スズメ、カワラヒワ、キジバト、ムクドリ等人家周辺タイプで市街地環境に適応した種が多く、ついで、多摩川が存在することからコサギ、カモ類、セキレイ類等水辺の鳥も確認されている。

表 2.1-2 計画地及びその周辺で確認された鳥類

No.	目名	科名	種名	No.	目名	科名	種名
1	カツオドリ	ウ	カワウ	16	スズメ	セキレイ	タヒバリ
2	ペリカン	サギ	コサギ	17		ヒヨドリ	ヒヨドリ
3	カモ	カモ	カルガモ	18		ヒタキ	ツグミ
4			コガモ	19			ウグイス
5			ヒドリガモ	20			セッカ
6			オナガガモ	21		シジュウカラ	シジュウカラ
7			ハシビロガモ	22		メジロ	メジロ
8	キジ	キジ	コジュケイ	23		ホオジロ	ホオジロ
9	チドリ	カモメ	ユリカモメ	24			アオジ
10			セグロカモメ	25		アトリ	カワラヒワ
11	ハト	ハト	キジバト	26		スズメ*	スズメ
12	フクロウ	フクロウ	コミミズク	27		ムクドリ	ムクドリ
13	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	28		カラス	ハシボソガラス
14		ツバメ	ツバメ	29			ハシブトガラス
15		セキレイ	ハクセキレイ	合計		8目	19科

※スズメの科名は、資料内ではハタオリドリ科と示されているが、現在の分類学に基づきスズメ科とした。
資料：「神奈川の鳥と獣 神奈川県鳥獣生息分布調査報告書」（平成4年3月、神奈川県環境部）

イ 鳥獣保護区等の指定状況

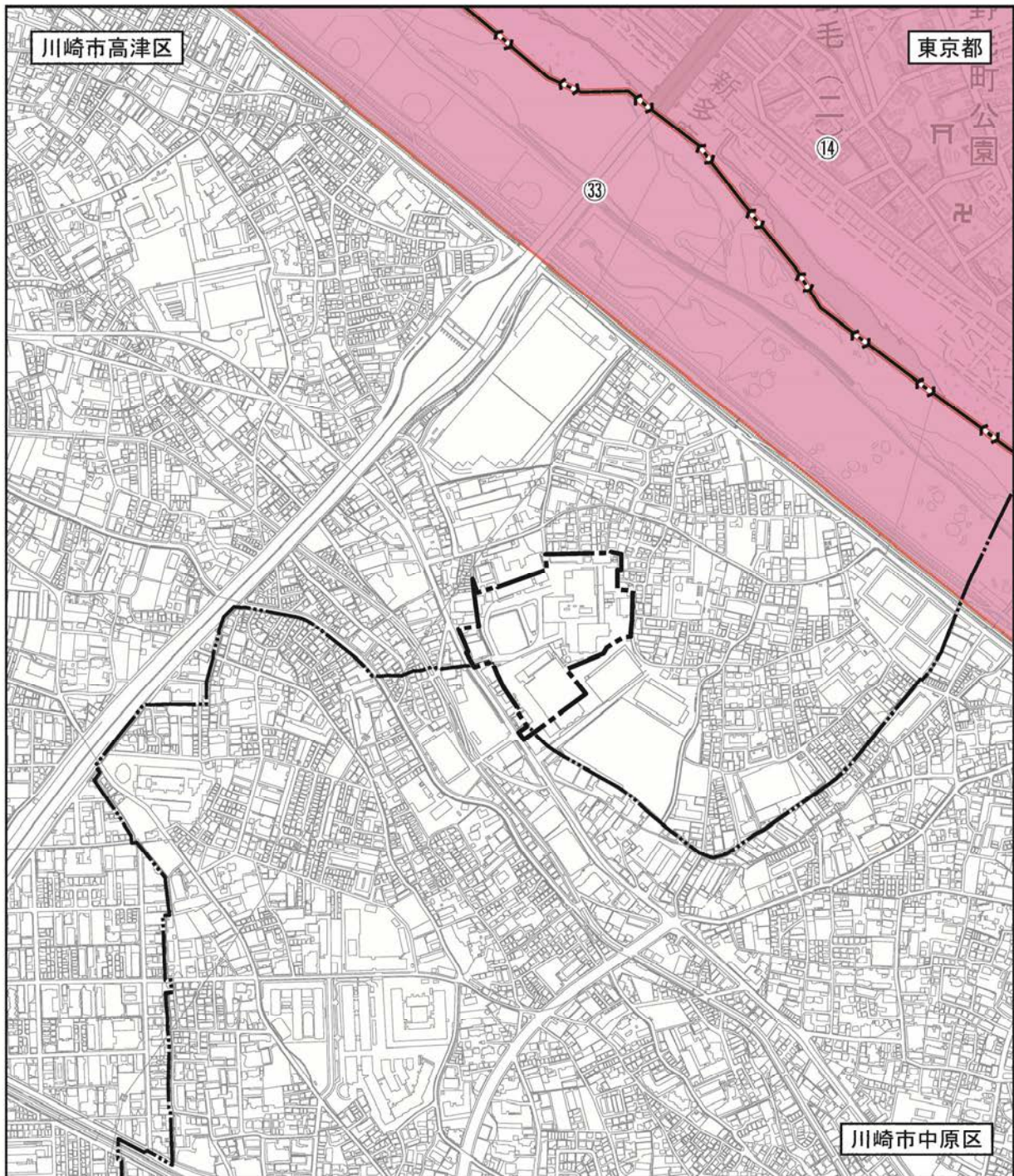
計画地及びその周辺における「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成14年7月、法律第88号）に基づく鳥獣保護区は、表2.1-3及び図2.1-6に示すとおり、「多摩川」及び「世田谷」が指定されている。

表 2.1-3 計画地及びその周辺の鳥獣保護区

番号	名称	期間	場所	面積(ha)	種類
㉓	多摩川	平成28年11月1日から 令和8年10月31日まで	川崎市多摩区、高津区、中原区、幸区、川崎区内の各一部	703.0	身近な鳥獣生息地
㉔	世田谷	平成21年7月1日から 令和11年6月30日まで	世田谷区西南部一円	1,920	身近な鳥獣生息地

注) 表中番号は、図2.1-6に対応する。

資料：「鳥獣保護区、鳥獣保護区特別保護地区一覧(令和4年11月1日現在)」
(令和5年8月閲覧、神奈川県ホームページ)
「令和4年度 東京都鳥獣保護区等位置図」（東京都環境局）



凡例

- 計画地
- 都県界
- 区界
- 鳥獣保護区

注) 图中番号は表 2.1-3 に対応

資料: 「神奈川県鳥獣保護区等位置図」(令和4年10月、神奈川県)
「令和4年度 東京都鳥獣保護区等位置図」(東京都環境局)

図 2.1-6 鳥獣保護区位置図



③ 緑（緑の質、緑の量）

ア 緑の質

（ア）潜在自然植生

計画地及びその周辺の潜在自然植生は図 2.1-7 に示すとおりである。

計画地及びその周辺の潜在自然植生はシラカシ群集 ケヤキ亜群集が大半を占め、一部ゴマギ-ハンノキ群集等が点在している。

「神奈川県における潜在自然植生」（昭和 51 年 3 月、神奈川県教育委員会）によると、各群落域における適性植栽種は、表 2.1-4 に示すとおりであり、計画地の適性植栽種としては、シラカシ群集 ケヤキ亜群集のシラカシ、タブノキ、ケヤキ等がある。

表 2.1-4 潜在自然植生の群落域における適性植栽種

潜在自然植生名	区分	潜在自然植生構成種	代償植生構成種
シラカシ群集 ケヤキ亜群集	高木層	シラカシ、タブノキ、ケヤキ	ケヤキ、エノキ、クヌギ、イヌシデ
	低木層	アオキ、ネズミモチ、イヌガヤ、イロハモミジ、チャノキ	サンショウ、ヤマコウバシ、クロモジ、マユミ、ゴンズイ
	草本層	ツルマサキ、マンリョウ、オオバジャノヒゲ、ジャノヒゲ	キンラン、ホウチャクソウ、ギンラン、イヌショウマ、エビネ

資料：「神奈川県における潜在自然植生」（昭和 51 年 3 月、神奈川県教育委員会）

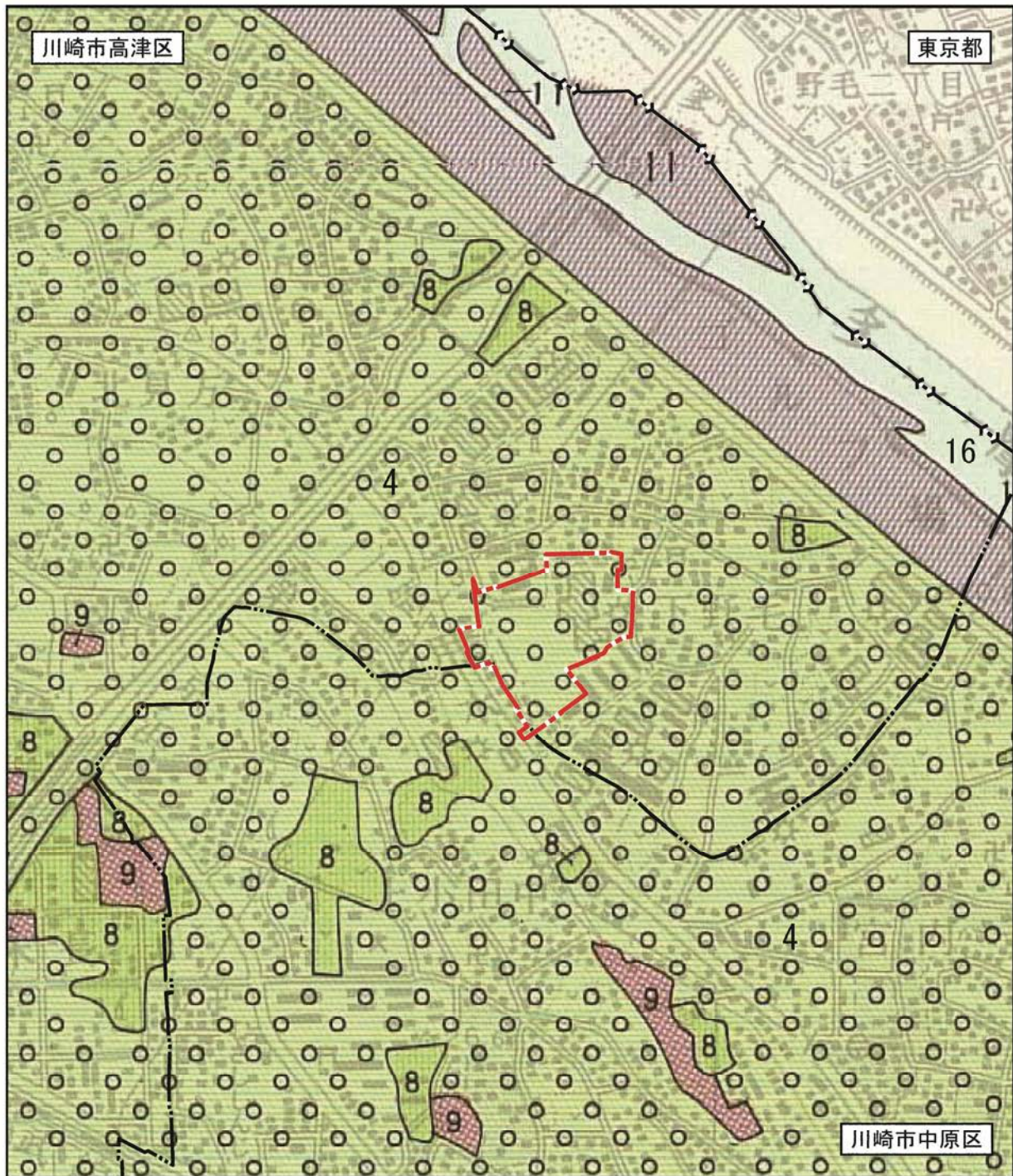
「川崎市および周辺の植生 -環境保全と環境保全林創造に対する植物学的研究-

（昭和 56 年 3 月、横浜植生学会）

（イ）日照、潮風の状況

計画地周辺は、中低層の倉庫、工場、住宅等で形成されているため、計画地の日当たりは建物隣接部等の一部を除き、概ね良好である。

潮風の状況については、計画地は多摩川の河口から約 16～17km の距離にあり、潮風の影響は見られない。



凡例

- | | |
|--|-------------------|
| | シラカシ群集 ケヤキ亜群集 |
| | 計画地 |
| | ゴマギーハンノキ群集 |
| | 都県界 |
| | オニスゲーハンノキ群集 |
| | 区界 |
| | オギーヨシ群団 他（河辺草原植生） |
| | 開放水域 |

資料：「川崎市および周辺の植生：環境保全と環境保全林創造に対する植生学的研究」（昭和56年3月、横浜植生学会）

図 2.1-7 潜在自然植生図

0 100 200 300 400 500m



イ 緑の量

(ア) 樹林地

「川崎市緑の基本計画」(平成30年3月、川崎市)によると、計画地のある高津区や中原区の土地利用は、住宅系の割合が最も高く、樹林地を保全していくことが求められている。

川崎市における緑地面積(平成28年度～令和2年度)は表2.1-5に示すとおり、増加傾向にある。

表 2.1-5 川崎市における緑地面積(平成28年度～令和2年度)

単位：ha

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
特別緑地保全地区	128.2	128.3	130.2	134.0	137.2
緑の保全地域	31.2	31.2	31.2	31.5	31.5
緑地保全協定	71.07	72.18	70.56	70.56	70.56
保存樹林	4.6	4.5	4.5	4.8	5.2
ふれあいの森	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1
保安林	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
合計	241	242	243	246	251

注)「合計」以外の項目は各年度版の資料に記載の値、「合計」は2021年度版の資料に記載の値を示した。
資料：「2017年度版～2021年度版 環境基本計画年次報告書」(川崎市)

(イ) 農地

計画地及びその周辺に農地は存在しない。

「川崎市緑の基本計画」によると、計画地のある高津区や中原区の土地利用は、住宅系の割合が最も高く、良好な都市環境を形成している一団の良好な農地を生産緑地地区に指定し、保全に努めることが求められている。

川崎市における農地面積(平成28年度～令和2年度)は表2.1-6に示すとおり、横ばい傾向にある。

表 2.1-6 川崎市における農地面積(平成28年度～令和2年度)

単位：ha

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
農業振興地内農用地	86	81.5	82.9	82.9	82.9
生産緑地内農地	279	276	273	268	264.9
体験型農園・市民農園等	9	7.6	10.1	10.7	10.9
合計	368	365	364	361	357

注)「合計」以外の項目は各年度版の資料に記載の値、「合計」は2021年度版の資料に記載の値を示した。
資料：「2017年度版～2021年度版 環境基本計画年次報告書」(川崎市)

(ウ) 緑化地

「川崎市緑の基本計画」によると、計画地の大部分が位置する高津区は多摩川をはじめ、二ヶ領用水久地円筒分水や、市内初の国史跡・橘樹官衙遺跡群など、緑、水辺と一体となった歴史的・文化的資源をはじめ、久末地区を中心とした農のある風景や多摩川の水辺、緑などの豊かな自然が残されており、保全とともに、これらの魅力を伝えていくことが求められている。

川崎市における公共施設等の緑化地創出面積（平成 28 年度～令和 2 年度）は表 2.1-7 に示すとおり、横ばい傾向にある。

表 2.1-7 川崎市における公共施設等の緑化地創出面積（平成 28 年度～令和 2 年度）

単位：ha

項目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度
公共施設等の緑化地創出面積	357	357	360	361	361

資料：「2021 年度版 環境基本計画年次報告書」（川崎市）

(エ) 公園緑地

計画地周辺の公園等の分布状況は、「(8) ② 公園等」の表 2.1-17(p.52 参照)、図 2.1-17(p.53 参照)に示すとおりである。

川崎市における公園緑地面積（平成 28 年度～令和 2 年度）は表 2.1-8 に示すとおり、増加傾向にある。

表 2.1-8 川崎市における公園緑地面積（平成 28 年度～令和 2 年度）

単位：ha

項目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度
公園緑地	776	782	785	791	790

資料：「2021 年度版 環境基本計画年次報告書」（川崎市）

(オ) その他の緑地

計画地周辺の「その他の緑地※」としては、計画地北東側の多摩川河川敷等があげられる。

川崎市における「その他の緑地」の面積（平成 28 年度～令和 2 年度）は表 2.1-9 に示すとおり、横ばい傾向にある。

表 2.1-9 川崎市における「その他の緑地※」の面積（平成 28 年度～令和 2 年度）

単位：ha

項目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度
その他の緑地※	約755	約755	約755	約755	約755

※：その他の緑地とは、河川の水面、河川敷等である。

資料：「2017 年度版～2021 年度版 環境基本計画年次報告書」（川崎市）

(5) 人口、産業の状況

① 人口及び世帯数の状況

計画地及び計画地に近接した町丁の人口及び世帯数は表 2.1-10 に、過去 5 年間の人口の変化は図 2.1-8 に示すとおりである。また、計画地及びその周辺の町丁の状況は、図 2.1-9 に示すとおりである。

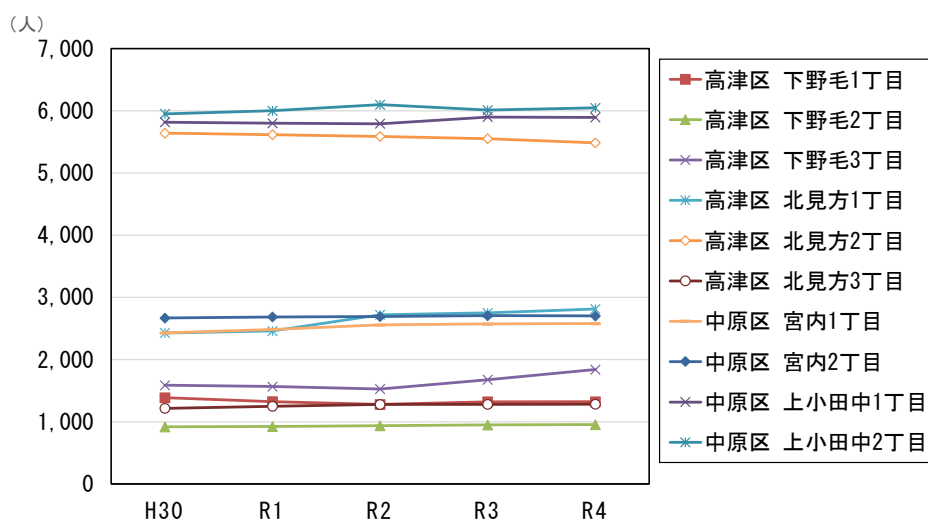
計画地は高津区下野毛 2 丁目、高津区北見方 3 丁目及び中原区宮内 2 丁目に位置する。下野毛 2 丁目、北見方 3 丁目及び宮内 2 丁目の人口は横ばい傾向にあり、令和 4(2022)年 12 月末日現在で下野毛 2 丁目の人口は 954 人、世帯数は 512 世帯、北見方 3 丁目は 1,283 人、688 世帯、宮内 2 丁目は 2,700 人、1,322 世帯である。

表 2.1-10 人口及び世帯数（令和 4(2022)年 12 月末日現在）

町 丁		人口（人）	世帯数（世帯）	
川崎市	高津区	下野毛 1 丁目	1,321	698
		下野毛 2 丁目	954	512
		下野毛 3 丁目	1,840	862
		北見方 1 丁目	2,812	1,334
		北見方 2 丁目	5,483	2,399
		北見方 3 丁目	1,283	688
	中原区	宮内 1 丁目	2,577	1,160
		宮内 2 丁目	2,700	1,322
		上小田中 1 丁目	5,893	2,901
		上小田中 2 丁目	6,045	2,740
		1,523,487	778,087	

注) 計画地は、下野毛 2 丁目、北見方 3 丁目及び宮内 2 丁目に位置する。

資料：「川崎市町丁別世帯数・人口」（令和 5 年 8 月閲覧、川崎市ホームページ）

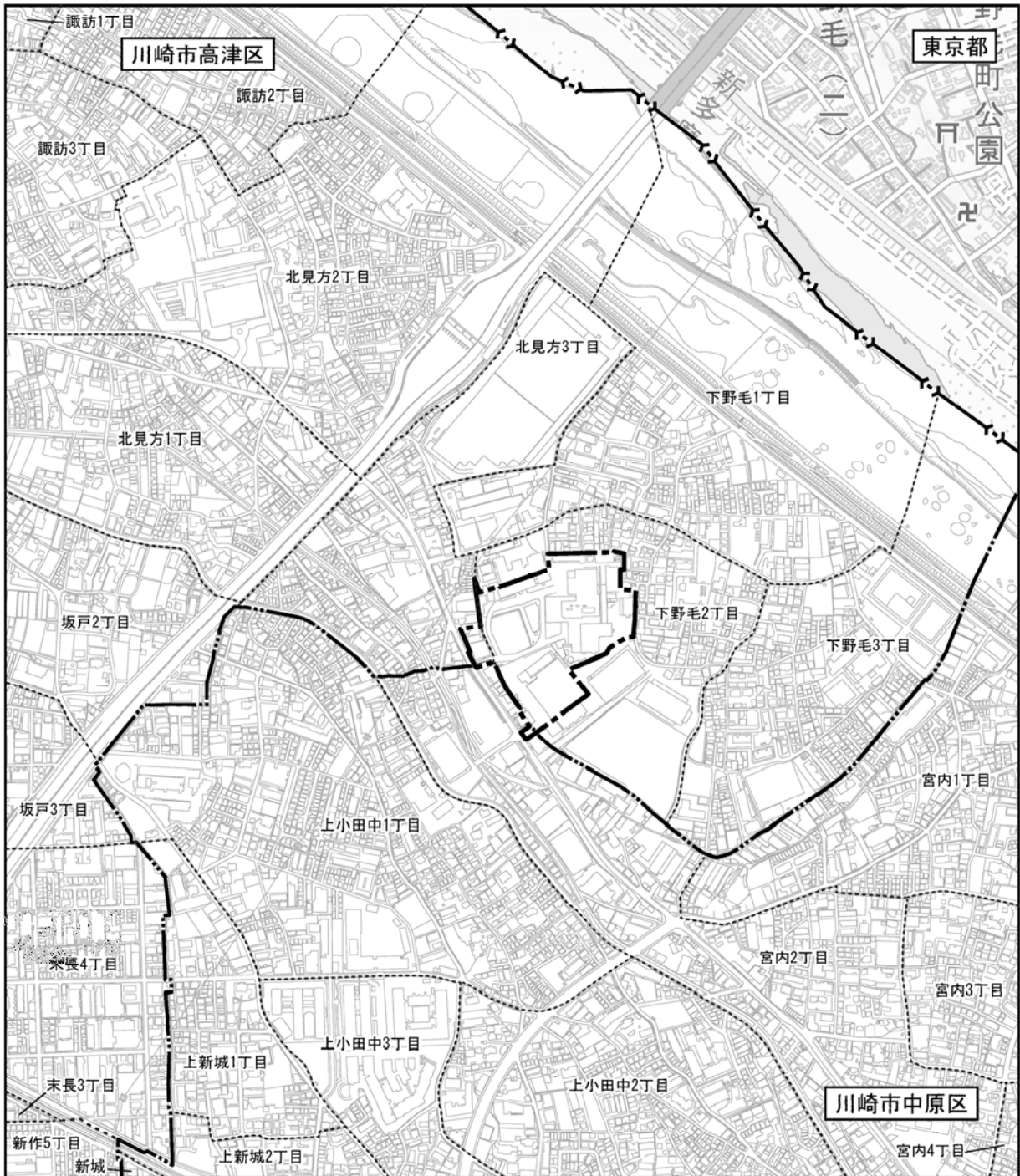


注 1) 計画地は、下野毛 2 丁目、北見方 3 丁目及び宮内 2 丁目に位置する。

注 2) 各年 12 月末日現在の値を示す。

資料：「川崎市町丁別世帯数・人口」（令和 5 年 8 月閲覧、川崎市ホームページ）

図 2.1-8 人口の推移



凡例

- 計画地
- ←→ 都県界
- 区界
- 町丁界

図 2.1-9 計画地周辺町丁図

0 100 200 300 400 500m



② 産業の状況

中原区及び川崎市全体の事業所数及び従業者数は、表 2.1-11 に示すとおりである。

産業分類別の事業所数は、高津区、中原区及び川崎市ともに「卸売業、小売業」が最も多く、次いで高津区では「不動産業、物品賃貸業」、「医療、福祉」、中原区では「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」、川崎市では「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」の順となっている。

産業分類別の従業者数は、高津区、中原区及び川崎市ともに「卸売業、小売業」が最も多く、次いで高津区及び川崎市では、「医療、福祉」、「製造業」、中原区では「情報通信業」、「製造業」の順となっている。

表 2.1-11 高津区、中原区及び川崎市全体の事業所数及び従業者数
(令和 3 年 6 月 1 日現在)

産業（大分類）		高津区		中原区		川崎市	
		事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)
第一産業	農業、林業、漁業	12	72	6	20	72	633
	計	12	72	6	20	72	633
第二産業	鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	-	-	-	-
	建設業	571	4,007	448	3,085	4,101	31,130
	製造業	595	8,333	454	16,599	2,806	70,892
	計	1,166	12,340	902	19,684	6,907	102,022
第三産業	電気・ガス・熱供給・水道業	4	160	5	24	41	716
	情報通信業	131	2,056	193	17,283	926	34,418
	運輸業、郵便業	103	3,070	67	2,807	1,256	35,224
	卸売業、小売業	1,066	14,355	1,347	18,793	7,971	102,975
	金融業、保険業	61	782	89	1,600	462	8,034
	不動産業、物品賃貸業	780	3,398	833	3,459	4,358	16,887
	学術研究、専門・技術サービス業	291	2,960	324	4,338	2,153	25,079
	宿泊業、飲食サービス業	575	5,499	1,022	13,495	4,604	47,580
	生活関連サービス業、娯楽業	432	2,437	586	2,994	3,141	17,984
	教育、学習支援業	206	3,421	315	2,908	1,485	21,151
	医療、福祉	678	11,450	956	14,175	4,774	84,798
	複合サービス事業	19	227	22	227	144	3,435
	サービス業（他に分類されないもの）	310	6,129	300	5,299	2,230	40,414
	計	4,656	55,944	6,059	87,402	33,545	438,695
合計		5,834	68,356	6,967	107,106	40,524	541,350

注) 「-」は皆無または定義上該当数値がないことを示す。

資料：「川崎市の経済(速報)―令和 3 年経済センサス-活動調査結果速報―」（令和 4 年 8 月、川崎市）

(6) 土地利用状況

① 土地利用規制状況

計画地及びその周辺における土地利用規制状況は、表 2.1-12 及び図 2.1-10 に示すとおりである。

計画地は準工業地域に指定されている。また、計画地周辺は準工業地域、第一種住居地域、準住居地域等に指定されている。

表 2.1-12 土地利用規制状況

項目	内容
用途地域	準工業地域
指定建ぺい率	60%
指定容積率	200%
その他	第3種高度地区

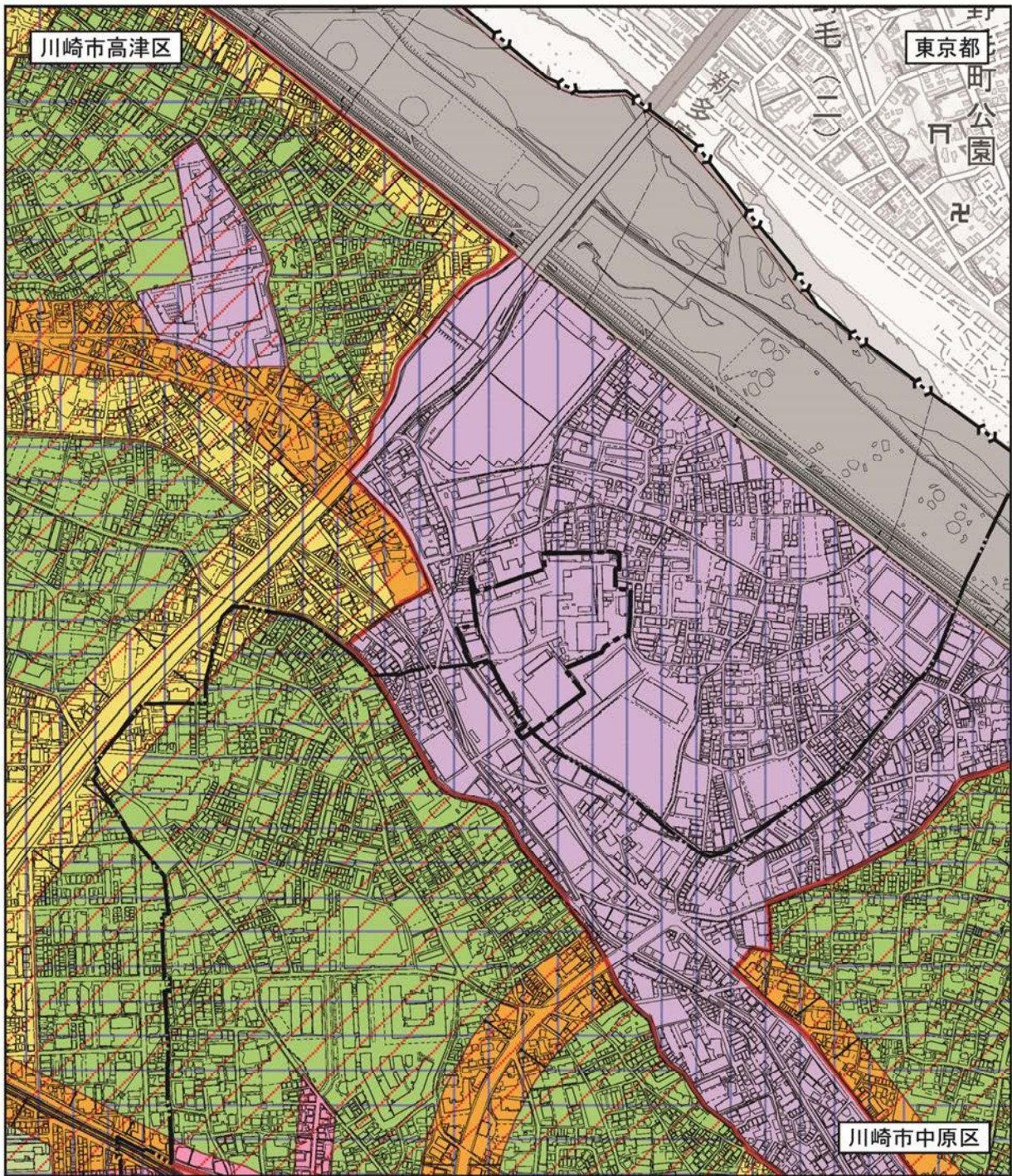
資料：「ガイドマップかわさき 都市計画情報 用途地域等」（令和5年8月閲覧、川崎市ホームページ）

② 土地利用の状況

計画地及びその周辺の土地利用は図 2.1-11 に、計画地及びその周辺の現況は写真 2.1-1(1)～(2)に、それらの撮影地点は図 2.1-12 に示すとおりである。

計画地は過去には、大部分が軽工業用地及び運輸施設用地として利用されていたが、現在は操業を終了している。

計画地の東側は「住宅用地」、「集合住宅用地」が主であり「軽工業用地」も分布している。南側、北側は規模の大きな「運輸施設用地」が分布し、その他、「文教・厚生用地」、「軽工業用地」等も分布している。西側は「住宅用地」、「軽工業用地」、「重化学工業用地」等が分布している。



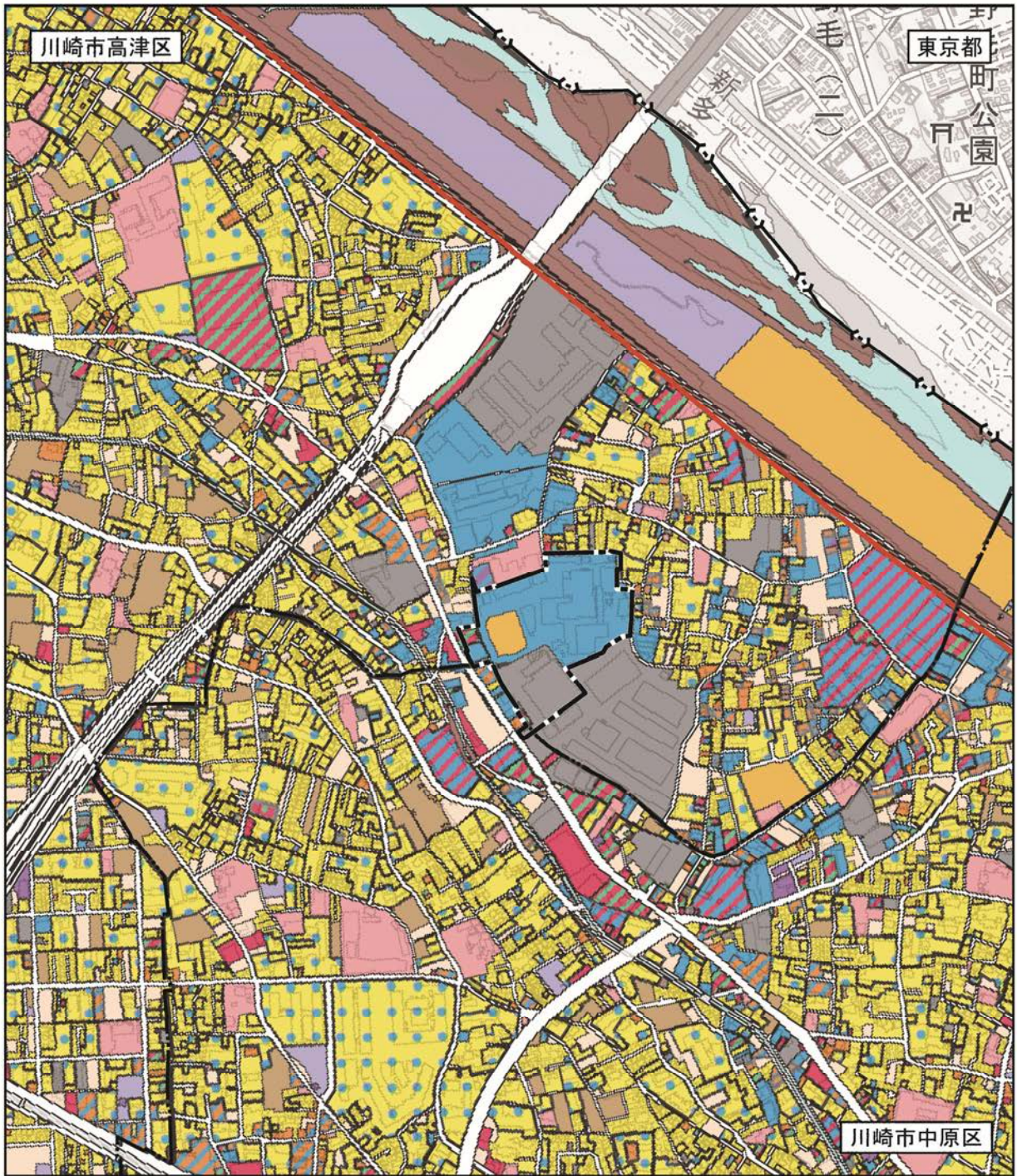
凡例

- | | | |
|---------|--------------|---------|
| --- 計画地 | 第一種中高層住居専用地域 | 防火地域 |
| ←→ 都県界 | 第一種住居地域 | 第2種高度地区 |
| --- 区界 | 準住居地域 | 第3種高度地区 |
| | 近隣商業地域 | 市街化調整区域 |
| | 準工業地域 | |

資料：「ガイドマップかわさき 都市計画情報 用途地域等」（令和5年8月閲覧、川崎市ホームページ）

図 2.1-10 都市計画図



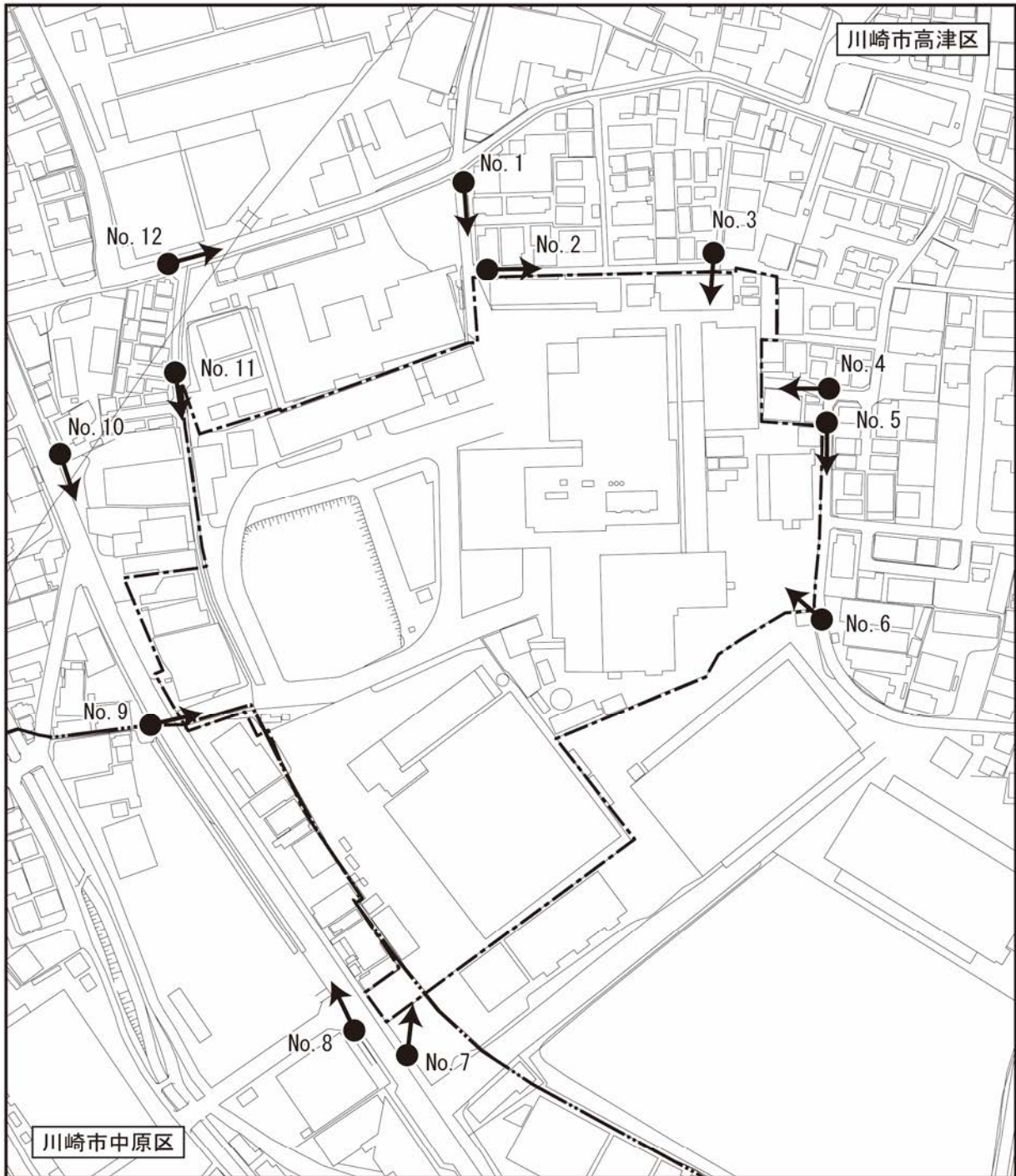


凡例		
田(水田)	作業所併用住宅用地	供給処理施設用地
畑	併用集合住宅用地	文教・厚生用地
--- 計画地	耕作放棄地	業務施設用地
--- 都県界	平地地山林	商業用地
--- 区界	傾斜地山林	宿泊娯楽施設用地
	河川、水面、水路	重化学工業用地
	荒地、海浜、河川敷	軽工業用地
	住宅用地	運輸施設用地
	集合住宅用地	公共用地
	店舗併用住宅用地	公共空地
		民間空地
		その他の空地
		防衛施設
		道路用地、鉄道用地
		農振農用地
		市街化区域と市街化調整区域の境界

資料：「神奈川県土地利用現況図【川崎東】」（神奈川県土整備局都市部都市計画課）

図 2.1-11 土地利用現況図

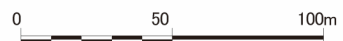




凡例

- 計画地
- · - 区界
- ➔ 撮影地点及び撮影方向

図 2.1-12 現況写真撮影地点位置図





No.1 計画地北側道路より



No.2 計画地北側道路より



No.3 計画地北東側道路より



No.4 計画地東側道路より



No.5 計画地東側道路より



No.6 計画地南東側道路より

写真 2.1-1(1) 計画地周辺現況写真（撮影日：令和5年6月20日）



No.7 計画地南西側歩道より



No.8 計画地南西側歩道より



No.9 計画地西側歩道より



No.10 計画地北西側道路より



No.11 計画地北西側道路より



No.12 計画地北西側道路より

写真 2.1-1(2) 計画地周辺現況写真（撮影日：令和5年6月20日）

③ 周辺地域の開発動向

計画地及びその周辺の道路等に係る計画等は、表 2.1-13(1)～(2)及び図 2.1-13 に示すとおりである。

本事業の主要な自動車動線となる国道 409 号（府中街道）は、「第 2 次川崎市道路整備プログラム」の対象路線であり、道路拡幅が計画されている。計画地に接する国道 409 号（府中街道）の「9 下野毛工区」はプログラムの後期②期間中（令和 11(2029)年度末まで）に着手予定となっている。

また、計画地東側約 500m で、国道 409 号（府中街道）と市道主要地方道幸多摩線（多摩沿線道路）を結ぶことになる市道宮内新横浜線の「10 宮内工区」は、道路整備プログラムの対象路線となっており、事業継続中ではあるが、多摩川に架かる「11 等々力大橋工区」はプログラム後期①（令和 7 年(2025)度末まで）に完成予定となっている。

表 2.1-13(1) 「第 2 次川崎市道路整備プログラム」の対象路線等
（整備推進路線（令和 11(2029)年度末までに完成予定））

地点	区別	路線名	工区名	前期 (H28～R3)		後期① (R4～R7)		後期② (R8～R11)
				当初 目標	進捗	当初 目標	進捗	取組
11	中原	(市)宮内新横浜線	等々力大橋	→	→	完成	完成	—

注) (市)は市道の道路事業に該当

→：事業継続、—：未着手または完成済

資料：「ひと・もの・ゆめ 明日へつながる道 第 2 次川崎市道路整備プログラム

～後期の取組【R4～R11】～ 計画期間 平成 28 年度～令和 11 年度」（令和 4 年 2 月、川崎市）

表 2.1-13(2) 「第 2 次川崎市道路整備プログラム」の対象路線等
（整備推進路線（事業継続中もしくは令和 11(2029)年度末までに着手予定））

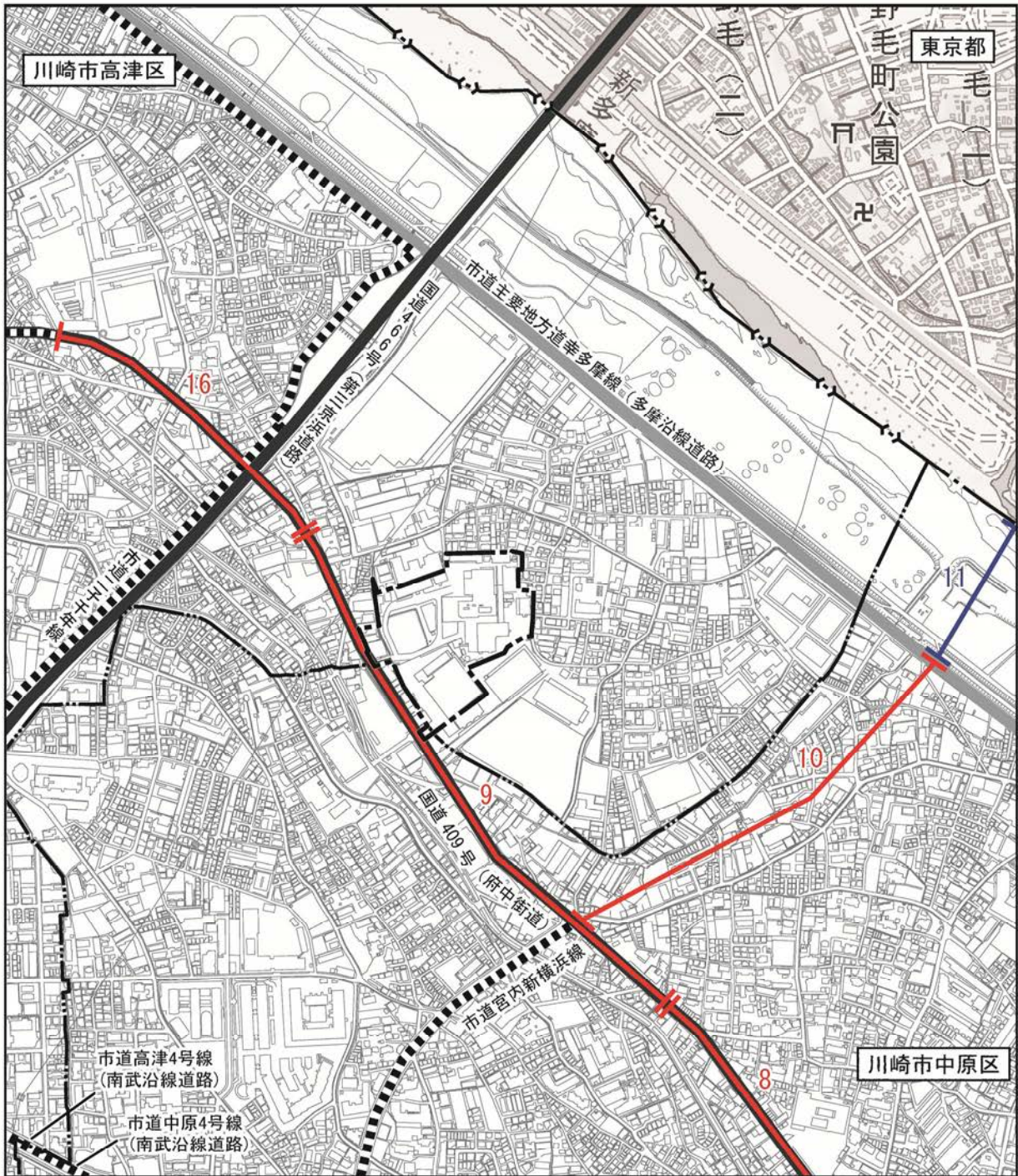
地点	区別	路線名	工区名	前期 (H28～R3)		後期① (R4～R7)		後期② (R8～R11)
				当初 目標	進捗	当初 目標	進捗	取組
8	中原	(国)国道 409 号	宮内	—	—	着手	先送り	着手
9		(国)国道 409 号	下野毛	—	—	着手	先送り	着手
10		(都)宮内新横浜線	宮内	→	→	→	→	→
16	高津	(国)国道 409 号	北見方	→	→	→	→	→

注) (都)は都市計画道路の街路事業、(国)は国道の道路事業に該当

→：事業継続、—：未着手または完成済

資料：「ひと・もの・ゆめ 明日へつながる道 第 2 次川崎市道路整備プログラム

～後期の取組【R4～R11】～ 計画期間 平成 28 年度～令和 11 年度」（令和 4 年 2 月、川崎市）



凡例

- | | |
|--|---|
| <p>--- 計画地</p> <p>--- 都県界</p> <p>--- 区界</p> <p>== 国道</p> <p>== 主要地方道</p> | <p>【道路整備事業】</p> <p>— 整備推進道路(令和11年度末までに完成予定)〈11〉</p> <p>— 整備推進道路(事業継続中もしくは令和11年度末までに着手予定)〈8~10、16〉</p> <p>【整備済路線】</p> <p>..... 整備済路線</p> |
|--|---|

資料:「ひと・もの・ゆめ 明日へつながる道 第2次川崎市道路整備プログラム
 ~後期の取組【R4~R11】~計画期間 平成28年度~令和11年度(令和4年2月、川崎市)
 「ガイドマップかわさき 都市計画情報 都市計画道路事業進捗図」(令和5年8月閲覧、川崎市ホームページ)

図 2.1-13 道路等に係る計画等の状況

0 100 200 300 400 500m

